

### Ⅲ 研究の実際

# 1年次研究

## 1 研究の内容と方法

生徒の「今」と向き合うためには、生徒が日々の生活の中で何を学び、どのように変容しているか、そのときに私たち教師はどのような関わりや指導をしているのかを明らかにしていくことが大切であり、それを踏まえることで、本校生徒に適した指導や発達の支援について方向性を見出していけるのではないかと考えた。

そのためには教師間で共通の生徒について見つめ、考え、話し合いながら指導したり評価したりすることが望ましいと考え、各学年から生徒を3～4名抽出し、自立活動について事例研究を通じた実践検証を行うこととした。その際、学年内でグループを作り、「生徒の実態把握、自立活動の目標・指導内容・指導方法・指導の場、実践、評価、改善」のサイクルで研究を進められるように計画した。

その他、各事例の成果や課題を全校生徒の指導に反映させるために、全学年の事例から、共通していると読み取れる実態の傾向を分析・整理し、そこから本校生徒に適した活動や体験についてまとめることとした。

そして、それらの取組がどうであったか、研究の内容や方法について職員からアンケートをとり2年次の研究につなげることとした。

#### 1年次の主な取組

- (1) 自立活動について事例研究を通じた実践検証
- (2) 本校生徒に適した学びの検証
- (3) 校内研究に関するアンケート

## 2 研究のスケジュール

日程	形態	主な内容	備考
5月26日(水)	全体	・研究の構想について	対象生徒について検討開始
6月23日(水)	グループ	・対象生徒の実態について	
7月19日(月)	グループ	・生徒の困難さと、その背景について	
8月19日(木)	グループ	・指導計画の検討	8月20日(金)2学期始業式
9月15日(水)	学年	・グループで検討した内容の共有 ・後期の指導の場、指導体制等について協議	9月17日(金)前期評価、後期目標提出
10月20日(水) 11月17日(水) 12月22日(水)	グループ	・後期目標等(P)に基づいて、実践し(D)、生徒の姿から評価(C)、改善(A)を繰り返す ・グループで成果と課題についてまとめる	
1月19日(水) 2月16日(水)	学年	・各グループから事例の報告 ・学年で成果と課題についてまとめる	1月20日(木)3学期始業式 2月25日(金)後期評価提出
3月16日(水)	全体	・各学年からの報告、今年度の研究のまとめ	次年度への方向性を検討

### 3 研究の経過と結果

#### (1) 自立活動について事例研究を通じた実践検証

事例研究は、以下の手順とサイクルで研究を進めた。

##### 【グループ検討】

1. 各学年から、3～4名抽出する。
2. 生徒について共通理解を図り、対象生徒の課題やその背景（学習上又は生活上の困難）を考える。
3. 課題を分析し、指導すべき課題、指導目標、指導内容・指導方法、指導の場を導き出す。
4. 生徒の姿から、実践、評価、改善を繰り返しながら、効果的な指導（授業や関わり）について明らかにする。



また、前期評価や後期目標の設定など節目のタイミングでは、学年全体で検討したり研究についてまとめたりする機会を設定した。

##### 【学年検討】

1. グループで検討した内容の共有
2. 指導の場、指導体制等について協議
3. 成果と課題（生徒の変容と指導等の関連、運営上の工夫や課題等）



## ① Plan (計画)



### ア 実態の整理

生徒を様々な面から理解することができるよう、日々の生活の中で対象生徒がそれぞれの教師との関わりや各指導の場等で見せる姿について「よさ」と「課題」に分けて意見交流を行った（写真1、2）。

### イ 困難さとその原因や背景について検討

次に「課題」として出された意見の中から、共通しているものや、ほとんどの課題につながっていると読み取れるものを「中心的な課題」として絞り、想定される原因や背景について意見を出し合った（写真3）。ここで大切にすることは、合っている、合っていないに関わらず、また、生徒との関わりや度合いや教員としての経験年数に捉われないこと、とにかくたくさん意見を出すことにした。そうすることによって、新たな視点について学ぶ機会にすることや、一度自分なりに考えることで次に生徒と関わる際に、背景等についてより想像しながら更なる実態把握ができる考えた。

さらに、想定される原因や背景については、中学校からの引継ぎ資料やこれまで関わった教師からの情報から妥当性が高いと考えられるものに絞るとともに、その原因等を「個人因子」と「環境因子」に分けて整理した（写真4）。そして、それを踏まえて、「今」優先的に指導すべき課題」と、「必要な環境」について意見を出し合った（写真5）。

### ウ 指導目標、指導内容・方法、指導の場の検討、設定

これまでの意見交流を基に行った実態の整理や生徒に必要な力や環境から、自立活動の目標、指導内容、指導方法、指導の場について検討し、個別の指導計画を作成した（写真6）。

### エ 学年検討

各グループで検討を進め、作成した指導計画について、学年の教員全員で情報を共有した。その際、「この場面でも指導できる。」など、検討するグループが違った先生からも新たなアイデアや協力体制の提案し合える場ができるよう進めた（写真7）。



写真1 「実態について意見交流」

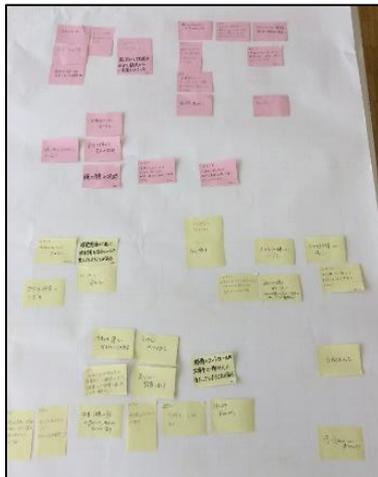


写真2 「よさ」と「課題」



写真3 「想定される原因や背景」

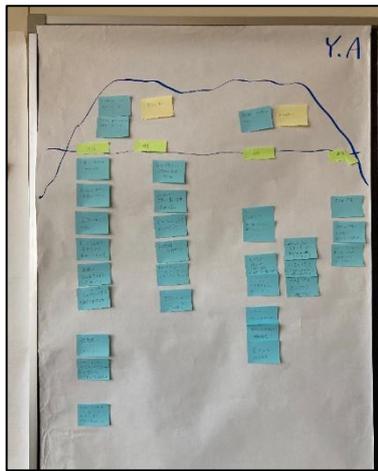


写真4 「個人因子と環境因子」

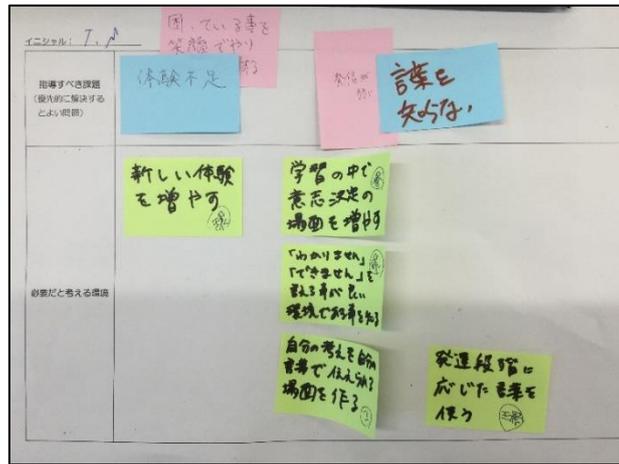


写真5 「指導すべき課題と必要な環境」

テーマ：PKK

自立活動の指導目標（目標）

実施にむけて適切な環境が与えられる。

指導の場	指導の場	指導の場	指導の場	指導の場	指導の場
① 生活科	② 総合学習	③ 道徳	④ 体育	⑤ 音楽	⑥ 美術
⑦ 外国語	⑧ 職業科	⑨ 特別支援科	⑩ 特別支援科	⑪ 特別支援科	⑫ 特別支援科
⑬ 特別支援科	⑭ 特別支援科	⑮ 特別支援科	⑯ 特別支援科	⑰ 特別支援科	⑱ 特別支援科
⑲ 特別支援科	⑳ 特別支援科	㉑ 特別支援科	㉒ 特別支援科	㉓ 特別支援科	㉔ 特別支援科
㉕ 特別支援科	㉖ 特別支援科	㉗ 特別支援科	㉘ 特別支援科	㉙ 特別支援科	㉚ 特別支援科
㉛ 特別支援科	㉜ 特別支援科	㉝ 特別支援科	㉞ 特別支援科	㉟ 特別支援科	㊱ 特別支援科
㊲ 特別支援科	㊳ 特別支援科	㊴ 特別支援科	㊵ 特別支援科	㊶ 特別支援科	㊷ 特別支援科
㊸ 特別支援科	㊹ 特別支援科	㊺ 特別支援科	㊻ 特別支援科	㊼ 特別支援科	㊽ 特別支援科
㊾ 特別支援科	㊿ 特別支援科				

自立活動における指導目標：内容の特性

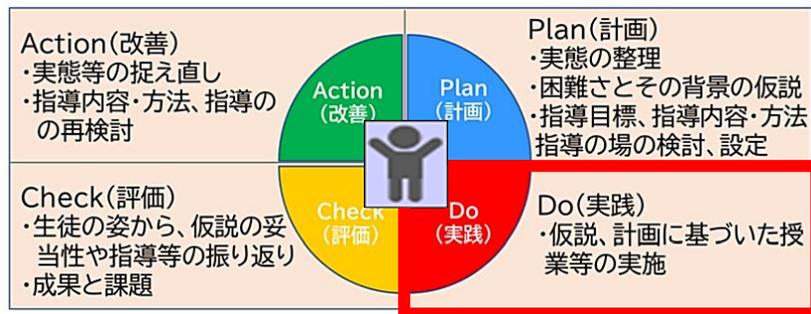
指導の場	指導の場	指導の場
SHR・LHR・社会生活	作業学習	資料科
読書・新聞	授業担当者	授業担当者
指導内容	指導内容	指導内容
指導方法	指導方法	指導方法

写真6 「個別の指導計画の作成」



写真7 「学年の職員で、各計画の共有、検討」

② Do (実践)



ア 仮説、計画に基づいた授業等の実施

Plan (計画) で話し合った指導仮説及び計画に基づいて、各指導者が担当する指導の場において、指導内容や指導方法を取り入れながら指導に当たった (例1、2)。

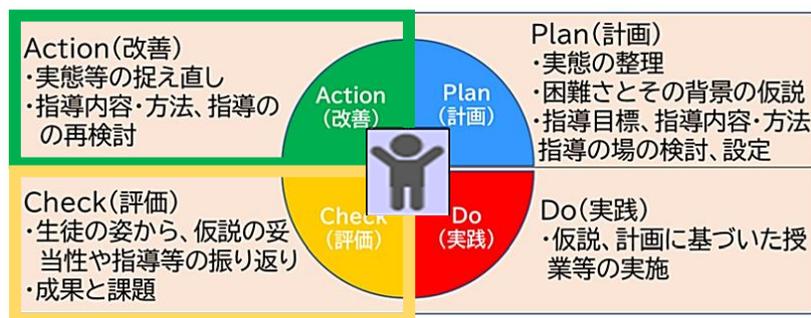
例1 「グループの話し合いを進める」



例2 「自分の役割や振る舞いについて振り返る」

(1) 自分の取り組み方 (どのように貢献したか)
緊張してあまり話せなかった。たけど含意いたりして話を聞きました。
(2) 他の方の良かったところ (すごいなあ、真似したいなあ)
みんな積極的に話したりしていたのが良かったです。
(3) 今日の時点での「今」はどうでしたか? (個人、チーム、学年)
緊張してあまり話せなかったです。
(4) 次に向けて (続けること、挑戦したいこと、改善したいこと)
少しずつ会話とかに入れるようにしたいです。

③ Check (評価) ・ Action (改善)



ア 生徒の姿から、仮説の妥当性や指導等について振り返る

各指導場面で取り組んだ指導内容や指導方法に対して、生徒の姿がどうであったかを評価として個別の指導計画に記入し、職員間で共有した (写真1)。また、その評価から、指導目標や指導内容、指導方法等は妥当であったかなど、教師側の見立てや指導についても振り返った。

## イ 実態等の捉え直し、指導内容・方法、指導の場等の再検討

生徒の姿に対する評価と、指導に対する評価から、新たに見えた生徒の姿を基に実態について捉え直しをしたり、他にもできそうな指導等について検討し指導の場を増やしたりするなど、評価から改善までを一体的に行った（写真2）。

## ウ 成果と課題

対象生徒について研究期間を通して取り組んだ指導目標、指導内容・方法、指導の場の指導の結果を一覧にして整理し（写真3）、生徒の変容等についての「指導の結果」、本研究から明らかになった「成果」と「課題」について、事例ごとにまとめた（写真3）。

インシヤル：HT  
 <自立活動の指導目標（後期）>  
 ○学校や学年の活動の中で、自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる。

指導の場（指導者）	指導内容（目指す姿）	指導方法（手立て）	評価
学科（学級・学年）、部活動、委員会 ・自分の役割が分かり、最後まで責任を全うする。 ・様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	心身の安定 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	人間関係の形成 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	指導の場 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。
各指導の場における指導内容・方法の設定（9月24日～10月20日）	心身の安定 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	人間関係の形成 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	指導の場 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。

写真1 「各指導の場における評価」

インシヤル：YM  
 <自立活動の指導目標（後期）>  
 他者の評価を素直に聞く（その後の目標は、他者の評価を素直に受け入れる）

指導の場（指導者）	指導内容（目指す姿）	指導方法（手立て）	評価
各指導の場における指導内容・方法の設定（9月24日～10月20日）	心身の安定 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	人間関係の形成 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	指導の場 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。

写真2 「指導内容・方法、指導の場の改善（追加等）」

奥の人の振り返り生徒（Y、M、D）  
 <自立活動の指導目標>  
 他者の評価を素直に聞く（その後の目標は、他者の評価を素直に受け入れる）

指導の場（指導者）	指導内容（目指す姿）	指導方法（手立て）	評価
各指導の場における指導内容・方法の設定（9月24日～10月20日）	心身の安定 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	人間関係の形成 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	指導の場 ・自分の役割が分かること、最後まで責任を全うすること、様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。

写真3 「実施した指導の一覧」

○指導の結果

- 総合では、グループで活動することで、自分の立場がわかるようになってきた。また、困っている人を助ける様子が見られるようになった。
- 体育では、自分で取り組みたいことを選択する機会を設定すると、自分に合った内容を選択できるようになった。
- 意向を言うことはなくなることはなかったが、事前に意向を言わないように伝えること、言わない様子があった。
- 自信を持つことには、積極的にできるようになった。
- 事前に正しい態度を伝えると、正しい態度で返ってきた。
- 友達が欲しい様子であるが、なかなかコミュニケーションが上手にできなかった。
- 期限や約束を守る事が難しく、今後は優先順位の付け方を学習する機会が必要である。

○成果

- 役割を与え、できたときには褒めると率先して行えるようになった。
- 自分で選択する機会を設定し繰り返し行うことで、自分に合った内容を選択できるようになった。
- 積極的に配慮（グループ編成や繰り返しを持つような支援など）をすると、グループ内の困った人を助けて、責任を持って取り組んだりする様子があった。
- 事前に正しい行動を伝えると、場所と人に応じた対応ができた。

○課題

- 場面に応じて、相手に与える印象や会話の仕方などが分かることより良い。
- 意向を口に出来ないようになると良い。
- 期限や約束を守ると良い。

写真4 「指導の結果」、「成果と課題」

④ 各事例について

全事例の中から、2学年の「経験が少なく、何事にも自信がない生徒」について取り組んだ事例について紹介する（他の事例については、Vの中で紹介）。

経験が少なく、何事にも自信がない生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| • 任されたことは確実にこなす | • 気遣いや心遣いができる     |
| • 登校が安定している     | • 優しい             |
| • 友達と有効的に関われる   | • 人の悪口を言わず、バカにしない |

② 課題

- |                |                           |
|----------------|---------------------------|
| • 周りの雰囲気流されやすい | • 「分からない」、「困った」など自分から言わない |
| • 苦手なことには消極的   | • 面倒くさがる                  |
| • 臨機応変な対応が苦手   | • 人への依存度が高い               |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- |       |           |
|-------|-----------|
| • 主体性 | • 人間関係の形成 |
|-------|-----------|

② 想定される課題の原因・背景

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| • 自己決定の機会が少ない       | • 中学時代、不登校          |
| • 経験不足、自信がない        | • 友人関係を築いた経験が少ない    |
| • 「嫌われたくない」という思いが強い | • 遊んだり喧嘩したりした経験がない  |
| • 不安が強い             | • 褒められた経験がない？       |
| • 信頼関係不足、愛情不足       | • 「できた」「分かった」の経験の不足 |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- |       |           |
|-------|-----------|
| • 主体性 | • 人間関係の形成 |
|-------|-----------|

「必要だと考える環境」

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| • 個の役割の設定       | • やらなければいけない場面の設定 |
| • わいわいできる友達との環境 | • 役割を与えて、それを果たす   |

(3) 「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

<自立活動の指導目標（後期）>

○学級や学年の活動の中で、自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	(1)情緒の安定に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること	(1)保有する感覚の活用に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基礎的機能に関すること	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること
	○(2)病状の状態の理解と生活管理に関すること	(2)状況の理解と変化への対応に関すること	○(2)他者の意図や感情の理解に関すること	○(2)感覚や欲の特性についての理解と対応に関すること	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	(2)言語の受容と表出に関すること
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関すること	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	○(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(3)感覚の補及び代手段の活用に関すること	(3)日常生活に必要な基本的動作に関すること	(3)言語の形成と活用に関すること
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関すること		(4)集団への参加の基礎に関すること	(4)感覚を総合的に活用した整理の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(4)身体の機能力に関すること	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
	(5)健康状態の維持・改善に関すること			(5)認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関すること	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場（指導者）	LHR（学級・学年）、部活動、委員会	総合、社会生活、職業	行事（学校祭）
指導内容（目指す姿）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割が分かり、最後までやり遂げる。</li> <li>様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな人の見方や考え方を知るとともに、自分の考えをもつ。</li> <li>与えられた課題や問題を解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。</li> </ul>
指導方法（手立て）	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の仕事（部活であれば副部長独自の仕事）を設定する。</li> <li>決定権を与える。</li> <li>誰がどのように役割を担当しているかなど、全体像を理解できるような図を使うなどして説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決するための手段について、友達の方法を参考に促したり、助言したりする。</li> <li>活動後に、適宜振り返りを行う。</li> <li>普段関わっていない人と関わる機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力できるような活動を設定する。</li> <li>目的達成までのプロセスを確認する。</li> </ul>

(4) 実践 ※赤字はその時点での評価

①9月24日～10月20日

イニシャル: HT  
 <自立活動の指導目標(説明)>  
 □学校や学級の活動の中で、自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる。

↓

進定された項目	課題の特性	心理的状況	人間関係の状況	環境の状況	身体的状況	コミュニケーション
	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ		

各指導の場における指導内容・方法の記述(9月24日～10月20日)

指導の場(指導者)	LHP(学校・学級、部活動、委員会)	親会、社会生活、療養	行事(学校祭)
指導内容(目標達成)	-自分の役割が分かり、最後までやり遂げる。 -様々な役割があることで、責任が降り立っていることを知る。	-いるいるな人の見方や考え方を知らるとともに、自分の考えを伝える。 -与えられた課題や問題を解決することができる。	-自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。
指導方法(学立て)	-親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。 -決断権を委ねる。 -親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	-解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。 -活動後、適宜振り返りを行う。 -普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	-友達と協力できるような活動を設定する。 -目的達成までのプロセスを確認する。
評価	親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。決断権を委ねる。親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。活動後、適宜振り返りを行う。普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。
その他の評価	親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。決断権を委ねる。親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。活動後、適宜振り返りを行う。普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。

②10月21日～11月17日

イニシャル: HT  
 <自立活動の指導目標(説明)>  
 □学校や学級の活動の中で、自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる。

↓

進定された項目	課題の特性	心理的状況	人間関係の状況	環境の状況	身体的状況	コミュニケーション
	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ		

各指導の場における指導内容・方法の記述(10月21日～11月17日)

指導の場(指導者)	LHP(学校・学級、部活動、委員会)	親会、社会生活、療養	行事(学校祭)
指導内容(目標達成)	-自分の役割が分かり、最後までやり遂げる。 -様々な役割があることで、責任が降り立っていることを知る。	-いるいるな人の見方や考え方を知らるとともに、自分の考えを伝える。 -与えられた課題や問題を解決することができる。	-自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。
指導方法(学立て)	-親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。 -決断権を委ねる。 -親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	-解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。 -活動後、適宜振り返りを行う。 -普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	-友達と協力できるような活動を設定する。 -目的達成までのプロセスを確認する。
評価(エピソード等)	親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。決断権を委ねる。親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。活動後、適宜振り返りを行う。普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。
その他の評価	親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。決断権を委ねる。親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。活動後、適宜振り返りを行う。普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。

③11月18日～12月22日

イニシャル: HT  
 <自立活動の指導目標(説明)>  
 □学校や学級の活動の中で、自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる。

↓

進定された項目	課題の特性	心理的状況	人間関係の状況	環境の状況	身体的状況	コミュニケーション
	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ	2学期以降の学習の遅れ 遅れ 遅れ		

各指導の場における指導内容・方法の記述(11月18日～12月22日)

指導の場(指導者)	LHP(学校・学級、部活動、委員会)	親会、社会生活、療養	行事(学校祭)
指導内容(目標達成)	-自分の役割が分かり、最後までやり遂げる。 -様々な役割があることで、責任が降り立っていることを知る。	-いるいるな人の見方や考え方を知らるとともに、自分の考えを伝える。 -与えられた課題や問題を解決することができる。	-自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。
指導方法(学立て)	-親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。 -決断権を委ねる。 -親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	-解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。 -活動後、適宜振り返りを行う。 -普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	-友達と協力できるような活動を設定する。 -目的達成までのプロセスを確認する。
評価	親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。決断権を委ねる。親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。活動後、適宜振り返りを行う。普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。
その他の評価	親の仕事(部活)がなければ親が親の仕事(部活)をこなす。決断権を委ねる。親がどのようになっているかを、全体発表で理解できるように回を渡すなどして説明する。	解決するための手段について、友達の方法を参考にするよう促したり、時を促したりする。活動後、適宜振り返りを行う。普段関わっていない人と関わらせる機会を設ける。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。

## (5) 指導の結果

- 学級の係活動では、毎日の時間割を変える担当になった。帰りの会の後に行う仕事だったが周りの友達に流されて仕事をしないで帰ることもあった。しかし、何度か注意を受けてからは忘れずに取り組むようになった。怒られるのか嫌だからという感じもあるかもしれない。
- 自分の課題と向き合い、今後の生活、現場実習に生かしたいという振り返ることができた。
- 昼休みの4組教室で、教師が「誰か手伝って～」と給食の食缶の片付けを声かけした。ちょうど4組に遊びにきたところの本生徒が、ササッと何も言わずに食缶を運んでくれた。
- 時間内に終わらなかった仕事を休み時間にやるなど、責任を持って仕事に取り組んでいる様子が見られる。
- さりげなく友達をフォローしたり、全体を客観的に見ていたりする。
- 現場実習では、自分にノルマを課しながら働く姿が見られた。作業も手際よく取り組んでいた。休憩中の職場の方々とのコミュニケーションも問題なくとれていた。母からは、「情緒不安定な感じで布団の中で泣いていた日があった。理由も聞いても言わなかった。朝も顔色も悪く、様子もおかしいが出勤していった。」との情報があった。そのような中でも頑張れるようになっている。
- 自分で思ったことを発表する場面が何度か見られた。
- 少人数のグループでは、積極的に行動できている。
- 学年の学祭練習では、しっかりやらないクラスメイトに対して注意をしたり、担任に知らせてくれたりして、学祭を成功させたいという思いを感じた。話し合いの場面で口火を切ったり、進行役を進んで行っていた。
- 学校祭学年実行委員になったことで、「メモをとる勉強になる。」「このチャンスを生かしたい。」など、前向きな発言があった。実行委員の話し合いでは、実際にメモをとったり、次回の打ち合わせの日程を自分から確認したりすることができた。
- 学校祭から非常に変わった。(準備中から大きな変化有)周囲の気配り、状況判断など何をとっても素晴らしい。

## (6) まとめ

### ○成果

- 目標設定が適切であり、必要な手立てを用いることができ、成長に繋がった。
- 学校祭を通して成長、自信に繋がった(集団の中での振る舞い)。
- 主体的に行動する場面が増えた。
- 自己理解が進んできた。
- 意欲的、主体的にとりくむ場面が増えてきた。
- 表情がよく、指示を聞けるようになってきた。

### ○課題

- 情緒面(ストレスの発散方法、コントロールの方法)の指導。
- 本人の気持ちを伝えることができる環境設定。
- 次のステップとして、「働き続ける」ことを見据えた指導について検討が必要。

## (2) 本校生徒に適した学びの検証

自立活動は個々に対して行う指導であるが、本校の規模の大きさ、指導の場の多くが集団であることを踏まえ、事例研究の取組を発展させ、学校全体で自立活動の指導の充実につなげたいと考えた。

そこで、(1) で取り組んだ事例研究では、各学年3～4名の生徒(全11事例)を対象としたが、そこで得た情報を本校に在籍している生徒の指導に反映させられるよう、そして、次年度の研究につなぐことを目的に以下の内容で研究を進めた(図1)。

まず、全11事例の「生徒の実態」と「想定される原因、背景」を照らし合わせ、その中で似ている内容は本校の生徒の大半に共通しているだろうと仮説を立て、研究部員で共通していると読み取れる内容を分析・整理し、「本校生徒の課題の傾向」と「想定される背景・環境」としてまとめた。

次に、研究部員でまとめた「本校生徒の課題の傾向」と「想定される背景・環境」を基に、事例研究で“効果的だった指導”や“もっとこんな指導が必要だった”という評価や反省を踏まえ、全職員でアイデアを出し合って「本校生徒に必要な活動・体験」、「実現するための環境」について検討し、まとめた。

さらに、「本校生徒に必要な活動・体験」の内容を「“個”に関する活動・体験」と「“人との関わり”に関する活動・体験」に整理し、「“個”に関する活動・体験」は「個別最適な学び」、「“人との関わり”に関する活動・体験」は「協働的な学び」として次年度の校内研究で授業に取り入れられるようにまとめた。

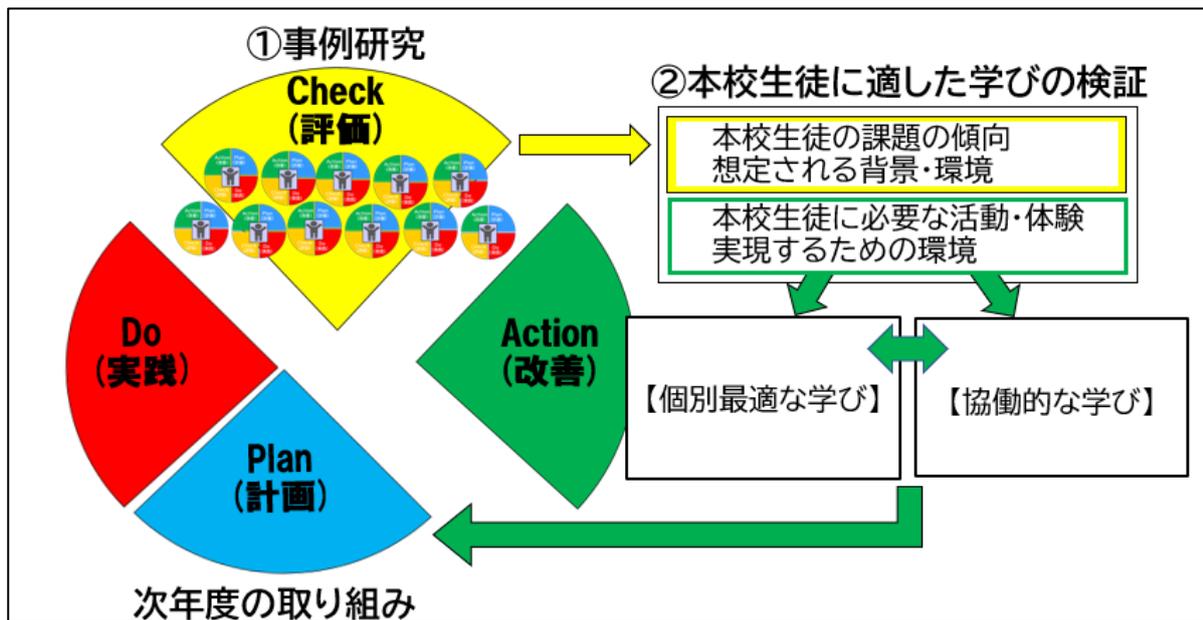


図1 事例研究から本校生徒に適した学びの検証、次年度の研究への流れ

① 「本校生徒の課題の傾向」と「想定される背景・環境」

全11事例の生徒の実態の中から「課題」と「想定される原因、背景」を一覧にし(表1、2)、それらを基に研究部で分析・整理した。

表1 事例生徒の課題の一覧(一部)

1. 本校生徒の課題の一覧		
<b>NO.1</b>	人に流されやすい 友達と騒ぐ 考えないで発言する	行動が落ち着かない 指示待ち 言葉が悪い 思いや考えを言語化できない
<b>NO.2</b>	マイベース 協働が苦手4 行動パターンが少ない	指示待ち 分からないことを聞けない 自分が「わかってない」ことが「わかってない」
<b>NO.3</b>	自分を見てほしい	時間配分が苦手 マイベース
<b>NO.4</b>	経験が少ない(努力→達成) 自分から話しかけるのに時間がかかる 自分の意見が言えない	自信がない 周りの評価を受け入れることができない 思ったことをそのまま言葉にしてしまう 家庭の協力が無い
<b>NO.5</b>	集中力が続かない 苦手なことには消極的	向上心が薄い 感情のコントロールが難しい
<b>NO.6</b>	周りの雰囲気になれやすい 苦手なことには消極的 臨機応変な対応が苦手	「分からない」「困った」など、自分から言わない 面倒くさがる 人への依存度が高い
<b>NO.7</b>	周りの雰囲気になれやすい 思っていることを伝えるのが苦手 緊張すると腹痛になる	思ったことを場面を考えずに言ってしまう 面倒くさがる 特定の友達と一緒に過ごす
<b>NO.8</b>		

表2 想定される原因や背景の一覧(一部)

2. 想定される背景の一覧			
<b>NO.1</b>	言葉を知らない 人を信頼できない	教えてもらっていない 注意されたことがない	経験不足 自信がない
<b>NO.2</b>	困ってない グループで解決	困った経験が少ない 誰かが処理してきた	助けてもらっていた 自信がない
<b>NO.3</b>	コンプレックス 完璧主義	認めてほしい うまくできない	自分を見てほしい 自己肯定感が低い
<b>NO.4</b>	自信がない 信頼関係の構築の進みが少ない	経験が少ない 話し合う機会が少ない 語句の学習の不足	人間関係の希薄 親の無関心
<b>NO.5</b>	感情 不安が強い	認められなかった 褒められた経験がない?	経験不足 信頼関係不足
<b>NO.6</b>	自己決定の機会が少ない 経験不足、自信がない 「嫌われたくない」という思いが強い 不安が強い	中学時代、不登校 友人関係を築いた経験が少ない 遊んだり喧嘩したりした経験がない 褒められた経験がない?	自分ルール 通学実績
<b>NO.7</b>	適に合わせたとるべき態度がわからない 周りの人が気になる足	生活乱れ(ゲームばかり) 自信がない	

ア 本校生徒の課題の傾向

課題に関しては、共通している内容や似ている内容をまとめた。その結果、自信や積極性などの「主体性」、規範意識や意思の表示などの「時、場、人に応じた言葉や振る舞い」、人間関係の構築や維持などの「対人面」の3つに整理した。

- 主体性(自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など)
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い(規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など)
- 対人面(人間関係の構築・維持、人との距離感)

イ 想定される背景・環境

一覧にした内容を生徒自身に関するものと環境によるものに分け、生徒自身に関するものを「個人」、環境によるものは多くが人と関わりのため「対人」として整理した。

その結果、「個人」としては、性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験が要素として考えられ、具体的には、できないことや分からないことの積み重ね、自己選択や自己決定、自分で物事を解決した経験の不足、段階的な自己理解の未熟さなどが挙げられた。また、「対人」では、経験の不足と負の経験が大きな要因として考えられ、具体的には、親や教師などの関わりの中で愛情を感じたり信頼関係を構築したりすることが思うようにできなかった経験、友達と対等に関わったり、友達と一緒に問題を解決した経験等が不足していたり、負の経験として積み重なっていることが挙げられた。

- 個人** 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験  
→できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で解決、不安、段階的な自己理解
- 対人** 経験の不足、負の経験  
→大人(親や教師)からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合いや共に課題解決

② 「本校生徒に必要な活動・体験」と「実現するための環境」

研究部でまとめた「本校生徒の課題の傾向」と「想定される背景・環境」を基に、事例研究の中で“効果的だった指導”や“もっとこんな指導が必要だった”という評価や反省を踏まえ、「本校生徒に必要な活動・体験」、「実現するための環境」について各学年でアイデアを出し合った。

ア 本校生徒に必要な活動・体験

1学年

- ・グループ単位での活動や学年レクの増設
- ・困難な状況を解決していくような体験的な活動（買い物など）
- ・生徒同士で企画、運営できる校外学習→体験→自信をつけさせていく
- ・他校との交流（マナーや礼儀、他者とのやりとりの学び）
- ・通年でのカフェ営業・あいサークルや行事の企画
- ・チャレンジ学習（例）生徒が自分で目標設定を行い活動していく
- ・日生の充実、マニュアル、ロールプレイの導入
- ・先生方との交流の増大

2学年

- ・個人面談
- ・他学年との関わりの充実
- ・地域とのつながりをもつ教育活動
- ・個別懇談の充実（振り返る活動など）
- ・多様な学習集団作り・活動・体験
- ・人とのコミュニケーションや課題解決を学ぶ活動
- ・個々の進路や課題を意識しながら活動
- ・行事の充実
- ・活動を通して自己理解が促進される活動
- ・教師と生徒との関係づくり
- ・自己理解を促す活動

3学年

- ・校外学習（社会見学、進路見学など）
- ・子供たちが自分たちで行う活動
- ・自治活動
- ・縦割りの活動
- ・日常生活の指導
- ・自己評価他者評価の分析（自己理解）
- ・地域とつながる活動
- ・自信をつけられる体験
- ・物事への向上心を育む活動
- ・色々な人との関わり合いを学ぶ（失敗も成功も含めて） → 学科・学級という枠を取っ払った活動を意図的にたくさん設定 → 学級（所属場所）が安全基地となっていること
- ・体験型学習
- ・生活経験を積むための学習
- ・教員のトップダウンのみの指導を減らす
- ・学年全体で取り組める学習
- ・生活訓練（生活習慣を整えることも含む）
- ・メンタルヘルスに関する学習
- ・除雪以外のボランティア（傾聴など）
- ・考える活動（やってもらって当たり前にさせない）
- ・知らない場所に出かけてみる

## イ 実現するための環境

### 1 学年

- 教科「社会生活」のあり方の検討（例）学習集団にあった内容・進度
- 部活の充実・委員会活動の発展など
- 対人面の取り組みとして生徒が心開ける空間作り（例）カムカムルーム パーテーションやソファやヨギボーなどをおいたスペース
- 進路スペース（例）進路資料の棚の充実 進路の意識を高めて意欲的な高校生活を送る
- 自立活動を活発にしていけるカリキュラムマネジメント（例）地域交流のための時間の確保・交流対象の設定
- あいさつなどは、職員から積極的に行う
- 個々の進路目標に合わせた教科選択

### 2 学年

- 個別懇談週間の設定（全職員、全生徒）
- 地域資源の活用、校外学習、地域学習の日を設定
- 行事の充実、時期、ねらいなどの見直し
- 学校設定教科の見直し（自立活動、自己理解や他者とのかわり、コミュニケーションなど）
- 学級の中心の指導・学習グループ体制から柔軟な指導体制（教師）、柔軟な学習グループ編成に
- 教科の在り方についての検討（指導体制、学習グループなど）
- 他年などと一緒に学ぶ授業や教育活動
- 時間に余裕がある時間割（昼休み、清掃など）
- クラス替え、コース制、他学科実習など

### 3 学年

- 指導の理解を深めるための保護者の参観と懇談
- 大人のサポートなしでも実現可能なイベントや旅行等
- 日常生活の指導
- 相手の主張を正しく認識するための指導
- 体力づくりの裏などで自立活動（面談などできれば）
- 職員、保護者向け校内研修（メンタルヘルスについて）
- 相談、面談できる部屋をつくる
- 1時間目～2時間目の間の休み時間（10分ほしい）
- 失敗しても友達に笑われない環境、失敗しても認められる環境
- 1年生の期間から進路（就労）に関する活動を充実させる（生徒、保護者ともに）
- 生徒が自ら選択できる（長所を伸ばすか短所を克服するか）
- 生徒が「やらされている」のではなく自然と「やる」につながる計画、指導支援→評価
- 生徒が自分の課題を常に意識し続けられるしかけ、システム
- 本人、保護者向けの就労支援セミナーなど（卒業後の生活について）
- 他学科作業で学校を知る（大人も生徒も）職員が生徒個々の自立活動の目標を正しく捉え学習活動全般で行う。基本に帰る！
- 学年の指導方針の共通理解（教師）→ベクトルの向きが統一
- 生徒が主体的に活動できるよう教師は裏方→1年から3年までやり続ける
- 地域との交流
- 他学年との交流（学習）
- 長所にスポットをあてて伸ばす指導
- 2時間続きの時間設定
- スクールカウンセラーの配置の継続
- LHRを使っでの学年ホームルーム
- 委員会活動の充実（生徒主体）

③ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に整理

各学年から集まった「本校生徒に必要な活動・体験」の内容を集約し（表1）、「“個”に関する活動・体験」と「“人との関わり”に関する活動・体験」に整理した。その際、「“個”に関する活動・体験」は「個別最適な学び（教師視点では「個人面談」）」、「“人との関わり”に関する活動・体験」は「協働的な学び（教師視点では、教育活動全体で取り組む自立活動の指導）」、さらに「協働的な学び」は「誰と学ぶか」を生徒の視点で整理し、次年度の校内研究で授業に取り入れられるようにまとめた。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別懇談の充実(振り返る活動など)</li> <li>・面談の時間(様々な形態での実施)</li> <li>・自己評価、他者評価の分析(自己理解)</li> <li>・教師と生徒との関係づくり</li> <li>・先生方との交流の増大</li> <li>・色々な人との関わり合いを学ぶ(失敗も成功も含めて)→学科・学級という枠を取っ払った活動を意図的にたくさん設定→学級(所属場所)が安全基地となっていること</li> <li>・課題解決学習 ※困難な状況を解決していくような体験学習(地域探索や買い物など)</li> <li>・生徒同士で企画、運営できる校外学習→体験→自信をつけさせていく</li> <li>・個々の進路や課題を意識して活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ単位での活動や学年レク</li> <li>・校外学習(社会見学、進路見学など)</li> <li>・体験型学習</li> <li>・多様な学習集団作り・活動・体験</li> <li>・生活経験を積むための学習</li> <li>・自治活動</li> <li>・学年全体で取り組める学習</li> <li>・考える活動(やってもらって当たり前にさせない)</li> <li>・チャレンジ学習 例)生徒が自分で目標設定を行い活動していく</li> <li>・他学年との関わり合いの充実</li> <li>・地域とのつながりをもつ教育活動</li> <li>・他校との交流(マナーや礼儀、他者とのやりとりの学び)</li> </ul>
---	--

表1 「本校生徒に必要な活動・体験を集約(一部抜粋)」

ア 「個」に関すること ↓ イ 人との関わり「協働」に関すること

ア 「個別最適な学び」(教師視点「個人面談」)

○主な要素(学習や生活の見通しを立てたり、学んだことを振り返ったりする)

- ・安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ・目標を立てたり、手立てについて考えたりする(自立活動の目標等について考える、理解する)。
- ・日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ・過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ・自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。

イ 「協働的な学び」(教師視点「教育活動全体で取り組む自立活動の指導」)

○主な要素(実践の場として、多様な人と関わり合いながらよりよい学びを生み出す)

- ・生活経験を増やす(学んだことを生かす・広げる、生かしたことを整理する)。
- ・多様な人と関わる(知る)。
- ・課題を解決する。
- ・自分(またはチーム)で目標を設定する。振り返る。
- ・個人やチームの役割を果たす。
- ・自分(またはチーム、相手)の気持ち等について考える。
- ・自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ・自分たちで集団を作り、発展させる。
- ・企画、運営をする。
- ・成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。

○誰と学ぶか(信頼できる身近な人から、人間関係を広げる)

教師と、学級、学習グループ、学年内、学年外、学校外

④ 「実現するための環境」を整理

「本校生徒に必要な活動・体験」と同様、各学年から集まった内容を集約し（表2）、ア「各授業で取り組むこと、検討すること」、イ「各学年で取り組むこと、検討すること」、ウ「学校全体で取り組むこと、検討すること」に分けて整理した。

また、ウ「学校全体で取り組むこと、検討すること」に関しては、更に「学年や学科（担当間）の調整が必要なこと」、「地域に関すること」、「保護者に関すること」、「教場等に関すること」、「時間割、日課に関すること」に細分化して整理した。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別懇談週間の設定（全職員、全生徒）</li> <li>・学級の中心の指導、学習グループ体制から、柔軟な指導体制、柔軟な学習グループ編成</li> <li>・教科の在り方についての検討（指導体制、学習グループなど）</li> <li>・あいさつなどは、職員から積極的に行う</li> <li>・教科「社会生活」のあり方の検討 例）集団・発達に応じた活動内容</li> <li>・学校設定教科の見直し（自立活動、自己理解や他者とのかわり、コミュニケーションなど）</li> <li>・失敗しても友達に笑われない環境、失敗しても褒められる環境</li> <li>・委員会活動の発展（生徒主体で進める、生徒会や委員会同士の連携、校外活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の活用、校外学習、地域学習の日を設定</li> <li>・クラス替え、コース制、他学科実習など</li> <li>・他学年などと一緒に学ぶ授業や教育活動</li> <li>・長所にスポットをあて長所を伸ばす指導</li> <li>・生徒が「やらされている」のではなく自然と「やる」につながる計画、指導支援→評価</li> <li>・生徒が自分の課題を常に意識し続けられるしかけ</li> <li>・時間に余裕がある時間割（昼休み、清掃など）</li> <li>・行事の充実、時期、ねらいなどの見直し</li> <li>・個々のニーズに合わせた教科選択</li> <li>・学科のシャッフル授業</li> <li>・地域資源の活用、校外学習、地域学習の日を設定</li> <li>・日常生活の指導</li> <li>・2時間続きの時間設定</li> </ul>
---	---

表2 「本校生徒に必要な活動・体験を集約（一部抜粋）」

ア「各授業で取り組むこと、検討すること」

イ「各学年で取り組むこと、検討すること」

ウ「学校全体で取り組むこと、検討すること」

※ウに関しては、更に細分化

ア 各授業で取り組むこと、検討すること

- ・教科「社会生活」のあり方の検討（例）学習集団にあった内容・進度
- ・学級の中心の指導・学習グループ体制から柔軟な指導体制(教師)、柔軟な学習グループ編成に。
- ・失敗しても友達に笑われない環境、失敗しても褒められる環境。
- ・生徒が自ら選択できる。
- ・長所にスポットをあて長所を伸ばす指導。
- ・生徒が「やらされている」のではなく自然と「やる」につながる計画、指導支援→評価。
- ・生徒が自分の課題を常に意識し続けられるしかけ、システム。
- ・LHRの年間指導計画の作成。
- ・あいさつなどは、職員から積極的に行う。

イ 各学年で取り組むこと、検討すること

- ・教科の在り方についての検討（指導体制、学習グループなど）。
- ・LHRを使っでの学年ホームルーム。
- ・2時間続きの時間設定。
- ・大人のサポートなしでも実現可能なイベントや旅行など。
- ・学年の指導方針の共通理解 → ベクトルの向きが統一。
- ・生徒が主体的に活動できるよう教師は裏方→1年から3年までやり続ける。

ウ 学校全体で取り組むこと、検討すること

○学年や学科（担当間）の調整が必要なこと

- ・委員会活動の発展（生徒主体で進めるなど）。
- ・他学年などと一緒に学ぶ授業や教育活動。
- ・他学科作業で学校を知る。職員が生徒の自立活動の目標を正しく捉え学習活動全般で行う。
- ・部活の充実。

○地域に関すること

- ・地域との交流資源の活用、校外学習、地域学習の日を設定など（「ありがとう」感謝される体験）。
- ・自立活動を活発にしていけるカリキュラムマネジメント。  
（例）地域交流のための時間の確保・交流対象の設定

○保護者に関すること

- ・本人、保護者向けの就労支援セミナーなど（卒業後の生活について）。
- ・1年生の期間から進路（就労）に関する活動を充実させる（生徒、保護者ともに）。
- ・指導の理解を深めるための保護者の参観と懇談。
- ・職員、保護者向け校内研修（メンタルヘルスについて）。

○教場等に関すること

- ・相談、面談できる部屋。
- ・対人面の取り組みとして生徒が心開ける空間作り。  
（例）カムカムルーム パーテーションやソファやヨガボールなどをおいたスペース
- ・スクールカウンセラーの配置の継続。
- ・進路スペース。（例）進路資料の棚の充実 進路の意識を高めて意欲的な高校生活を送る

○時間割、日課に関すること

- ・体力づくりの裏などで自立活動（面談などできれば）。
- ・個別懇談週間の設定（全職員、全生徒）。
- ・1時間目～2時間目の間の休み時間（10分ほしい）。
- ・掃除の時間を毎日設定。
- ・時間に余裕がある時間割（昼休み、清掃など）。
- ・日常生活の指導の設立。
- ・個々の進路目標に合わせた教科選択。
- ・学校設定教科の見直し（自立活動、自己理解や他者とのかわり、コミュニケーションなど）。
- ・行事の充実、時期、ねらいなどの見直し。
- ・クラス替え、コース制、他学科実習など。

### (3) 校内研究に関するアンケート

一年間の研究のまとめとして、また、次年度の校内研究の計画に反映させるために、校内研究の内容や方法、その他意見や要望等について職員にアンケートを取った。その内容を以下に示す。

#### ① 研究の内容について

ア 「自立活動の指導」について、事例研究を通じた実践検証を行う。

イ 「実践」と「評価」を行い、本校生徒（対象生徒）に適した学びについて検証する。

- ・自立活動が大切だとは分かっているが、教科など普通の学習の中で意識して取り組む機会は少ない。今回、意図的に意識して取り組むことができ大変良かった。
- ・グループで話し合いをすることで**授業以外の生徒の様子**が分かり指導に生かせる部分もあった。
- ・自立活動については担任が目標を立てているが、**担任も学校生活の一部しか見ていないため他の先生方と共に実践評価することは有効だった。**
- ・高等支援学校では、自立活動についてどの指導形態でどのような指導をしているのかが、見えずらい傾向があるので今回自立活動をテーマとして取り上げることでしっかり取り組みを意識する良い機会になったと思う。
- ・大切な部分なので検討の場があり良かった。
- ・**前期・後期の目標設定の前にできると良い。**
- ・対象生徒だけでなく、多くの生徒について話せると良い。
- ・どの学習も自立活動を踏まえた「ねらい」を考えて展開していくことが大切であると感じました。
- ・『主体的』について先生方で共通理解できればもっと面白い教育活動になりそうだと思います。
- ・生徒を抽出し、いろいろな角度から課題をクリアするためにいろいろな手立てを考えたことは有意義であった。
- ・とても指導の参考になった。
- ・生徒の良いところを見つけられた。
- ・自立活動を扱ったことはよかった。（おざなりになりがちな自立活動なので・・・）
- ・よかったです。
- ・自立活動の指導項目に難点はありますが、**「卒後に必要な力」**を整理するには役立っていました。
- ・**時間と回数が不足**してPDCAサイクルの機能は不完全でしたが、教員それぞれの指導に役立つ実のある場でした。

#### ② 研究の方法について

ア 学年内のチームで「実態把握」、「目標、指導内容・方法等の設定」「評価」「改善」を行う。

イ 職員間で対話（情報共有）をしながら、学年の研究部が中心となって事例についてまとめる。

- ・**職員の対話を中心に**研究を進めていただきとても参加しやすかった。また、都度、ポイントを簡素にまとめて提示していただいたのでやりやすかった。
- ・**小さなまとまりで協議**することができて良かったです。
- ・学年内で事例研究を通して、事例生徒の指導に関して、学年全体のより深く行うことができ良かった。また、より深く生徒のことを理解できた。

- 学年団の研究はやりやすかった。
- 学年単位で良い。各クラス1名の抽出でも良かった。
- 検証する場はあまりないので「事例研」として成り立たせるには研究部の努力が必要になる。
- これが、職員室で日常的に行えるといいなと思いました。
- 全体での研究は意見が出にくい、チームに分けるとチーム内で意見交換が活発になり良かった。
- 私が参加したチームは方向性が一致していたがそうでない場合の舵取りは担任が適任だと思う。
- 他学年の生徒を事例として扱うのは難しいので、今年度のように**学年単位がベスト**だと思う。
- 生徒について話す機会となったので今回の方法は良かった。研究なのでまとめなければならないと思いますが、形にこだわらず、いろいろな話ができるの良い。結局は、先生たちの研究に参加する意欲や意識なのだと思います。研究部の皆さんお疲れ様です。
- よかったです。
- スモールステップで目標を持ち、見通しがもてて良かった。
- 担任として目のとどかない所に見付けられて良かった。
- みんなで目標を見える化して結果につながっている。
- チームの雰囲気“人”だと思う。
- 良かったが、研究の主題にせまっているか？という実感がなかったので、主題に向かったの整理が数回に1回あると良かった。
- 学年主体で話せ、とても話し合いがしやすかった

### ③ その他

ア 校内研究（研究部）への意見や要望。

イ より充実させるためのアイデアなど。

- 生徒について、授業について、学級、学年経営についてなど振り返ったり、意見交換したりすぐにも**実践に生かせる時間**になると良い。また、生徒指導の研修もやってみたいです。
- **事例研究**が一番面白いと思いました。
- 今年度の研究は、「数名の心に何かを生み出せた」と考えています。日々の業務には反映されないと思うが小さな変化の積み重ねは、とても重要です。お疲れ様でした。
- **生徒の課題改善**について掘り下げて話をするのができて良かった。
- 今回の研究の流れを個別の指導計画などとも連動させたり、保護者と共通理解することで教育活動がより充実し、生徒の力につながると思いました。
- 参加者が増えると良いと思う。「研究」とするから参加者が減るのであれば、**学年会（生徒事例検討）**とかにすると参加者が増えるだろうか。とにかく、話し合う場を有効に設定活用しWINWINになると良い。
- 他学科作業で学校を知る。（大人も子どもも・・・）
- 今年のようなやりかたが良かった。
- 長期研修に行った人から話が聞きたい。
- 今年度行った成果を教育課程や指導に生かすことができれば。
- 来年、社会科は体験的に授業をやりたいという希望を持っています。

#### ④ アンケートの結果より

アンケートの結果では、多くの先生方に概ね良かったとの評価をいただいた。アンケートの中で、次年度の研究に具体的に反映できると考えた内容についてまとめた。

(○については今年度の内容や方法を継続、△については改善案として次年度の計画に反映させる)

##### ア 研究の内容について

○担任も学校生活の一部しか見ていないため他の先生方と共に実践評価することは有効だった。  
△前期・後期のタイミングでできるとよい

##### イ 研究の方法について

○職員の対話を中心に研究を進めていただき、とても参加しやすかった。  
○学年団の研究はやりやすかった。  
○小さなまとまりで協議することができて良かった。  
△各クラス1名の抽出でも良かった。

##### ウ その他

○事例研究が一番面白いと思いました。  
○生徒の課題改善について掘り下げて話をするのができて良かった。  
○今年のようなやりかたが良かった。  
△今回の研究の流れを個別の指導計画などとも連動させたり、保護者と共通理解したりすることで教育活動がより充実し、生徒の力につながると思いました。  
△研究の成果を教育課程や指導に生かす。

#### ☆次年度の方向性

- ・事例研究を継続し、各クラス1名を抽出する。
- ・学年を中心として、対話を中心に研究を進める。
- ・個別の指導計画と連動させ、前期・後期のタイミングで目標設定や評価をできるようにする。
- ・最終的に、研究の成果を教育課程や指導に生かせるような研究やまとめにできるよう計画する。